

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 4月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501255		
法人名	有限会社 ワームサポート		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	室蘭市御崎町2丁目10番19号 (電 話) 0143-23-2800		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月31日	評価確定日	平成22年4月7日

【情報提供票より】(22年 3月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 4月 6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人、 非常勤 0人、 常勤換算 17人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3 階建ての	2~3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:10,000 円 暖房費:5,000 円(10-3月)
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(45,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(3月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 73 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日鋼記念病院、大川原脳神経外科病院、ふじかね内科医院、 松田内科クリニック、谷口歯科医院、J FUKUDA DENTAL CLINIC
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム ひだまりの家」は駅前から坂を上がったところの住宅地に位置している。丘陵の地形を生かし事業所建物の3階に遊歩道を造り、白鳥大橋を背景に打ち上げる花火大会を楽しみ、地域住民との交流の場として有効に活用できる。また、災害時に備え2階のベランダや遊歩道が避難路になり、町会や近隣との協力体制も得られている。運営者と管理者は住民との交流を積極的に進めて地域に溶け込んでいる。医療や福祉の養成機関の実習施設としての実績から地域や行政の評価が得られており、経験を積んだ職員のケアのもとで利用者はアットホーム的な環境で暮らしている。開設5年が経過し利用者の重度化への対応方針を具体的に検討しているところである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で課題にした、理念、家族への報告と意見、職員の育成、同業者との交流、重度化に向けた方針、面会簿、災害対策などは、更なる向上に向けて真摯な姿勢で全面的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は項目ごとに全体会議で意見を交換し、管理者が内容を文章化している。自己評価を実施する中で、「個人を尊重する」との意味を良く話し合い、また地域との関わりの必要性を確認し今後の取り組みへの契機になっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、家族が交替で代表として参加している。活動報告の他に、事故防止、新型インフルエンザ対策、実習生やボランティアの受け入れ状況などを報告している。一方、火災予防体制について町会や近隣の協力的な申し出があり、地域ぐるみで事業所の安全を協議し運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「ひだまりの家通信」を毎月発行し、写真を中心に行事の報告と予定、事業所のお知らせ、職員の交代、また個人へのメッセージ欄に普段の様子を伝えている。来訪時に意見を伺い、苦情や意見などは毎日のミーティングで話し合い早急に改善している。意見などは連絡ノートに記録し全員が内容と対応を確認している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会役員の協力や地元との長い付き合いもあり、事業所は地域に溶け込んでいる。昨年と同じように神社の祭りに参加し、文化展には展示スペースを用意してもらい、今年度は生け花、クリスマスの装飾などを出品し、住民から関心を寄せられている。事業所の夏祭りには関係者や子供連れの家族等が大勢参加している。今後は事業所の遊歩道も活用し住民との交流を深めたいと予定している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の基本理念を地域密着型サービスの視点から見直し、「ひだまりの家は 地域とともに、おだやかで安らぎのある暮らしの場を 明るく、楽しく、笑いがある暮らしの場を 一人ひとり誇りを持ち尊厳のある暮らしの場を めざします。」という、一部を変更し、地域での暮らしの場を盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新たに見直した理念を「ひだまりの家通信」やホームページに載せ、運営推進会議に報告して周知している。理念は目に触れる要所に掲示している。役職者の名刺の裏に理念を記載しているが、全職員の名刺を作成し理念を印刷する予定でいる。毎日のミーティングで利用者の尊厳について常に確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会役員の協力や地元との長い付き合いもあり、事業所は地域に溶け込んでいる。昨年と同じように神社の祭りに参加し、文化展には展示スペースを用意してもらい、今年度は生け花、クリスマスの装飾などを出品し、住民から関心を寄せられている。事業所の夏祭りには関係者や子供連れの家族等が大勢参加している。今後は事業所の遊歩道も活用し住民との交流を深めたいと予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は項目ごとに全体会議で意見を交換し、管理者が内容を文章化している。自己評価を実施する中で、「個人を尊重する」との意味を良く話し合い、また地域との関わりの必要性を確認し今後の取り組みへの契機になっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、家族が交替で代表として参加している。活動報告の他に、事故防止、新型インフルエンザ対策、実習生やボランティアの受け入れ状況などを報告している。一方、火災予防体制について町会や近隣の協力的な申し出があり、地域ぐるみで事業所の安全を協議し運営に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者と管理者は必要な時は頻繁に市に出向き、制度的なことや利用者の個別の相談をしている。管理者は認知症に対する住民への理解を深めるために市と連携し講師の依頼を受けており、次年度の行政の介護予防事業の一環に協力し、町会や住民の施設見学を受託するなど認知症に対する啓蒙に協働して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月の利用料を現金払いにして面会を勧め、来訪時には預り金の出し入れについても確認している。「ひだまりの家通信」を毎月発行し、写真を中心に行事の報告と予定、事業所のお知らせ、職員の交代、また個人へのメッセージ欄に普段の様子を伝えている。視覚的な配置と充実した内容の報告で家族からも喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に報告し、その中で意見を聞いている。苦情や意見などは毎日のミーティングで話し合い早急に改善に努め、連絡ノートに記録し全員が内容を確認している。出された意見から洗濯物の間違いがないように担当者を決めて日々チェックをするなど対応に努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間でたまに異動もあるが、合同行事や利用者が他ユニットに遊びに行くなど日常的な交流があり、職員とは顔馴染みになっている。職員の離職には精神的な落ち込みや感情失禁もあるので利用者には積極的な説明はしていない。退職後に遊びに来ることもあり自然に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時にはオリエンテーション後に現場に入ってもらい、経験によって業務の見習い期間を決めている。職員の経験に応じて業務に必要な研修には会社が費用を負担して年1～2回は外部の研修に参加している。研修の内容をミーティングで報告しており、今後は勉強会などを充実させたいと考えている。事業所内では外部の講師を招き、感染症、口腔ケア、オムツの取り扱いなどを学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回、市のグループホーム連絡会の事例研修に参加している。西胆振広域連合会のグループワーク研修に参加し、その中で2ヶ所の他事業所と1日の相互実習を行っている。8事業所のケアマネジャーが定期的に集まり、情報や意見の交換をして交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が納得してサービスが利用できるように、入院中の場合も外出して本人の見学を勧めている。昼食やレクリエーションに参加し、一日体験や宿泊体験も行っている。入居後はコミュニケーションを多くして、帰宅願望がある時は散歩や興味があることを提供し、マンツーマンで対応することもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症サポーター養成で話している「急がせない、驚かせない、恥ずかしい目にあわせない」との言葉を取り上げ、管理者は、コミュニケーションを大切に共に過ごすことを指導している。職員は利用者から日々学んでおり、重度化し発語が少ない利用者が意思を伝えようと努力する姿勢に気持ちが動かされて力をもらうことがある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の暮らしや生活歴の情報から意向を引き出し、また行動や表情、利用者の一言など気付いたことを記録して話し合い、料理の味見など役立ちたいと思う利用者の役割も介護計画に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーが入居時に利用者情報を基に基本情報シートを作成している。全職員がその内容を把握して利用者と共に過ごしながら状況観察を行い、ケアマネジャーが1週間後に初期計画を作成している。センター方式のアセスメントでは、本人、家族の生活に対する意向を伺い、日々の関わりで気付いた内容と共に計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は計画期間を定め、短期目標を3ヶ月に設定している。退院後や嚥下状況、周辺症状などの変化の表出が認められた場合はその都度計画を変更し、また、変化がなくとも3ヶ月ごとに見直しを行い新たな視点で計画を作成している。日々の職員メンバーでミーティングを重ね、サービス担当者会議で毎月のモニタリング実践記録表の評価内容を取り上げ課題を検討し、計画書に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が安全安楽に寝起きしやすいベッドレンタルの紹介や馴染みの場所へのドライブ、お盆の頃には近隣の市町村にある墓参りの支援などをしており、その時々々の利用者、家族のニーズに応じている。訪問理容以外に行きつけ美容室への同行支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科衛生士の口腔ケア指導や看護師による週一度の居宅療養管理訪問（健康相談）、必要時には土日を含む往診が得られる体制など医療機関と協力関係を築き支援を行っている。入居前のかかりつけ医への受診が可能であり、職員が通院支援を行い通院報告書に内容を記載して個人ファイルに綴り、家族への報告や介護計画に反映させている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の対応については、事業所の現体制の基でできる限りの支援に取り組まれており、現状を盛り込んだ内容を方針として文書化し、重要事項説明の際などで家族に伝えている。過去に医療的支援が発生するぎりぎりまでの看取り介護の支援に取り組まれたケースがある。	○	医療連携体制加算取得による支援体制について、最善の方策をいかに構築していくか、各関係機関と熟慮を持って検討している最中である。重度化・終末期の支援に当たっては、事業所と職員が一つのチームとなって取り組む最大の場面でもあるゆえ、全体のものとして取り進められるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	何気なく利用者と接している対応の場面や良かれと思って発している言葉などが、自尊心を傷つけるものとなっていないかどうか、ミーティングなどで話す機会を持ち注意を促している。個人のプライバシーの厳守や秘密保持、記録保持年限については運営規定、契約書などで明示し、取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ものの流れや時間の流れに沿って、職員は利用者に声をかけ望む暮らしに応えている様子が窺える。新聞や民報、チラシを読みたい利用者には提供し、毎日の入浴、起床、就寝時間など、健康に配慮しながら個々のペースに合わせている。昔、得意で好みとしていたことでも現在はどうであるかを考え、一方的なケアにならないようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものを注文するファミレス外食や誕生会、クリスマスなど様々な行事での特別メニュー、冬場の出前など、毎日の食生活に変化をつけて楽しんでいる。日々の食事の場面では職員が献立を紹介しさり気ない介助を行い、面会の家族が食卓を共にすることもある。野菜の下ごしらえや下膳など、自身の役割と考えて関わっている利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	13時のバイタル測定後の14時～16時30分の間で毎日入浴設定があり、少なくとも一人週2回の入浴支援を行い、毎日入浴する利用者もいる。状況によりシャワー浴や足の浮腫みを緩和させるフットバスを使用している。脱衣所の保温や声かけ、タイミングを工夫し、不安感や誘導に配慮してゆったりと寛いでもらえる対応に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の体力や体調に気遣いながら、洗濯物干しや窓の拭き、食事に関わる作業などを担ってもらい、力を活かせるよう支援している。カルタや諺レク、将棋、軽運動を共に楽しみ、物語風の貼り絵や生け花作品を文化展に出品して、張り合いと喜びが幾重となるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は遊歩道で過ごし外気浴に心掛けている。洞爺、壮瞥へのドライブ帰りに利用者の好きな当地のおやつを味わい、絶好のロケーションを持つ遊歩道で花火大会を堪能するなど、季節を感じる大小の外出支援を行っている。時々家族の参加を得て一緒に楽しむ機会を確保している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員見守りで出入りは自由であるが、単独で階下に出かけた場合も玄関と一体の事務室で運営者や事務長と会話して過ごすなど、事業所内での連携を図っている。外玄関は日中開錠し、内玄関は電動式であるが手動による開閉を取っている。ユニットドア、エレベーターにセンサーを設置している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営者は室蘭市防災管理者協議会に加入し、事業所の防災対策に力を注いでいる。年2回、地域住民の参加と消防署の指導を得ながら昼夜を想定した火災訓練を実施し、担架使用想定訓練も行っている。防災マニュアル、消防計画、連絡網などの整備や年1回の救急救命訓練を重ねている。	○	スプリンクラー設置の調整が進んでおり、完備に向け準備中である。災害種別（地震など）に応じた避難訓練の重要性も認識されており、災害備蓄品の確保と共に、消防署の意見を仰ぎながら取り組まれることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外の水分量は1000ccを目途に提供し、献立では多様な食材を献立に取り入れ、年2回、市の栄養士のアドバイスを得て栄養バランスなどに留意している。個人記録に食事・水分摂取量を記録して職員間の共有を図り、医師の指示を受け栄養補完食品の提供やペースト、刻み食など個々の状態に応じた食事形態で支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体がオール電化設備で、高齢者に望ましいとされる遠赤外線反射熱暖房を採用し、24時間エア換気システムを導入している。階段は利用者、職員、地域住民の作品がアトリエのように飾られ潤いを与えている。ユニット全体が明るく温かみのある設えで、居間から眺望が良いことや廊下非常口から遊歩道に繋がり、屋外空間も含めて居心地の良さが窺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や本人と相談してできるだけ馴染みの家具や使い慣れた用品を持ち込んでもらっている。利用者にとって安心して寛げる設えを家族と相談しながら支援しており、観葉植物や家族の写真、大切にしている品々を傍らに置いている。状態変化に伴って介護ベッドへの移行や収納が分かりやすいよう表示するなど配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。